藤女子大学のディプロマ・ポリシー
（学位授与の方針）

本学の建学の理念および教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．文化、社会、科学、自然など自らを取りまく諸相を理解する基盤的知識をもとに、文学部、人間生活学部および各学科の求めるそれぞれの専門分野の知識、技能を修得し、それらを応用できる。（知識・理解）
2．幅広く複眼的な視野をもって偏見なくものごとをとらえ、狭隘な思考方法にとらわれることなく、多様なアプローチで課題に取り組み、解決に向けて議論、判断できる。（思考方法）
3．言語等による円滑なコミュニケーション力を身につけ、様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を柔軟に伝達し、説得できる。（コミュニケーション）
4．人間として、女性として自らに誇りをもち、同時に他者と社会を謙虚に受容し、生活のなかで求められる社会的役割を認識し、自身の目的と責任にむけて自己実現できる。（志向性）
5．キリスト教的世界観および人間観をよく理解し、隣人や疎遠な人、弱者に対しても、愛の精神をもって、柔軟に誠実に対応することができる。（態度）
6．教職員と学生の人格的触れ合いのなかで、学習を主体的に経験し、創造的な思考力を身につけて、国際意識をもちつつ、地域社会の諸問題に取り組むことができる。（国際意識・人間力）

学部・学科のディプロマ・ポリシー
（学位授与の方針）

文学部

本学部の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．それぞれの専門領域において基礎的な知識と研究方法を身につけ、自ら課題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・統合することを通して、自らの見解を論理的にまとめることができる。（知識・理解、問題発見・解決力）
2．多角的な視野のもとで領域横断的な課題を発見し、解決に向かう道筋を構想することができる。（問題発見・解決力、知識・理解）
3．日本語を含む多様な言語と文化を深く理解し、さまざまな他者との交流・共同において、言葉による情報を的確に受容するとともに、自らの意思を的確に発信することができる。（コミュニケーション力）
4．社会・歴史・文化に関わる文献・情報を的確に分析し読み解くことができ、情報社会において情報の受け手および送り手として必要な倫理観と知識・技能をもって行動することができる。（情報リテラシー）
5．さまざまな文化的、社会的な事象について、建学の理念であるキリスト教的な人間観および修得した専門的知見に基づく判断と行動によって、自律した個人として、自らの社会的責任を果たすことができる。（社会性）

英語文化学科

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．実践的英語力を身につけ、英語を生かして相互のコミュニケーションを円滑にし、事実上世界のコミュニケーション言語（Lingua Franca）になった英語のスペシャリストとして、様々な分野で活躍できる。（コミュニケーション能力）
2．本学科のモットーである“English for academic purposes”の理念に基づき、英語を使って、文学、言語学など専門分野への知識を豊かにし、国際的な視点で専門的な知識を追求する力を身につけ、幅広い分野で活躍できる。（知識・理解）
3．英語力・専門的知識を生かして、世界の地域、民族、文化の理解を深め、世界・日本の課題を創造的に発見し、追求できる。さらに、課題や解決法を分析的手法と論理的思考によって表現し、外の世界に発信できる主体性と能力を身につける。（問題発見・解決能力、思考・表現力）

日本語・日本文学科

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

母語としての日本語を用いながら、日本語、日本文学、および歴史・文化を対象化し、情報化社会の諸問題をみずから発見し解決してゆくために、以下の汎用的能力を身につける。

1．日本語学・日本文学・思想、および漢文学に関する文献・資料を正確に読みこなす能力を得る。また、それぞれの研究分野における先端的知識を調査・収集し、理解することができる。（情報リテラシー）
2．日本語学・日本文学・思想、および漢文学の学習で得た読解力と知識をもとに、広く日本の文化・社会の歴史的かつ現在的諸問題に取り組み、批評することができる。（思考力）
3．学習成果を日本語によって論理的かつ柔軟な思考に基づき論述することができる。また、自己の見解を、日本の文化・社会の諸問題との関連において正確に理解把握し、広く他に主張することができる。（表現力）

文化総合学科

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．人々との交流・協働において、多様な言語・文化を深く理解し、情報を的確に受容し、発信することができる。（コミュニケーション力）
2．異文化コミュニケーション、社会と制度、歴史、思想系列などを主要な柱として多角的な視野のもとで問題解決に必要な道筋を創造的に構想することができる。（創造的思考力）
3．専門的な知識と研究方法を身につけ、領域横断的な課題を自ら発見し、情報や知識を論理的に分析し、総合することができる。（総合的理解力）

人間生活学部

本学部の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．生活の質・生き方の質向上という共通の目標を目指して、基礎的知識を総合的・横断的に用いつつ、各学科の専門分野の知識、技能を修得し、それらを応用できる。（知識・理解）
2．多角的視点と広い視野に立って物事を理解し、様々な生活課題を解決するために、柔軟な発想と論理的思考力によって、他者と協力できる（コミュニケーション、問題解決能力）
3．自立した人間として常に人格的成長を求め、自分が置かれた具体的な場で、各自の専門的知識、技能を生かし愛と奉仕の精神をもって他者を支援しつつ社会的責任を果たすことができる。（志向性、社会的責任）
4．学修や実習等を通じて培われる総合的経験や横断的な思考力を生かし、国際的視野をもって地域社会の諸問題に取り組むことができる。（総合的な学習経験、創造的な思考力）

人間生活学科

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．生活科学、社会福祉、地域環境の３分野について基礎的な知識を修得し人間の尊厳を大切にしてさまざまな学習テーマに取り組むことができる。（態度・志向性）
2．他者の理解や、状況の把握、あるいは生活課題をとらえたり、解決策の検討や実施のためのコミュニケーション・プレゼンテーション能力を身につける。（汎用的技能）
3．衣食住を基本とする生活の形成や、生活上の困難・障害を有する人びとへの支援、条件を違える人々がともに地域づくりや環境づくりに寄与する専門的知識と技能を修得し、それらを応用できる。（知識・理解）
4．ライフスタイルをデザインし、ヒューマンライフをサポートする実践力を培い、個人や社会の生活の質（QOL）の向上に貢献できる。（総合的な学習経験と創造的な思考力）

食物栄養学科

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．管理栄養士として必要な知識・技能を有し、それらを統合して応用できる。（知識・理解）
2．栄養や食に関する問題を科学的根拠に基づいて論理的に思考し、解決できる。（思考方法・問題解決能力）
3．コミュニケーションを基礎として、良好な対人関係を構築できる。（コミュニケーション力）
4．修得した知識・技能をもとに人の健康を栄養と食の面から支援し、保健・医療・福祉・教育などの場で、社会に貢献できる。（社会的責任）

保育学科

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1．子どもについての全人的理解、保育の営みに関する理解、子どもを取り巻く社会問題についての理解に関する広範かつ高度な専門的知識の修得と、これらの専門的知識・理解の成果を現場で応用できる。（知識・理解）
2．子どもの内面にふれ心の動きを察知する力を身につけると同時に、子どもを取り巻く社会環境を多面的に把捉することで、子どもや保護者が抱える諸課題に対応する力を身につける。また、保育現場で遭遇するさまざまな問題に対処できる論理的思考力と問題解決へと導く能力を身につける。（汎用的技能）
3．他者を理解し援助するため、また、他者と協働するために必要な人格形成をめざし、保育を通して社会的責任を果たしていくことのできる態度・倫理観を主体的に身につける。さらに卒業後においても自学自習できるような自立性をもった人間となるように学習を深めていく。（態度・志向性）
4．実習、卒業研究、ボランティア活動、地域社会と関わるさまざまな社会経験を通し、社会が抱える複雑な問題を包括的な視点で分析し、汎用性のある論理的・抽象的思考力を身につける。広い知性と新たな発想で対処可能な創造的思考力が養われ、具体的で個別の問題に適切に対処できる。（総合的な学習経験と創造的思考力）

藤女子大学のカリキュラム・ポリシー
（教育課程の編成・実施方針）

本学の建学の理念および教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育を行う。

1．文学部と人間生活学部の両学部のもとに、共通科目、外国語科目、学科専門科目等を設置し、広範な教養教育および専門的教育を実現する。
2．講義、演習、実技、実習等の多様な形態の授業を通じて、基礎的知識の教授や実践的・汎用的能力の養成を行う。
3．豊かな教養と広い視野を身につけさせるために、共通科目を設置する。
4．キリスト教的世界観・人間観について理解を深めるために、キリスト教科目を必修とする。
5．国際性豊かな人材育成の一環として、多様な外国語教育を行うとともに、海外の大学との協定により留学の機会を提供し、留学中に修得した単位を本学の卒業要件単位に認定し得るよう制度を整え、留学・国際交流を促進する。
6．卒業後を見据えて女性の社会的自立とキャリア形成を意識した有意義な大学生活を送るための姿勢を養うよう、キャリア支援科目を初年次に配置し、必修とする。
7．教員免許取得やその他専門教育に関連する各種資格の取得のための授業科目を設置し、卒業後のキャリアに備えた教育を行う。
8．公正な成績評価をするために、その観点や基準を明示する。

文学部カリキュラム・ポリシー

本学部の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するため、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．広範な知識・教養や考え方の習得のために、学科専門科目の他に共通科目を設置する。
2．国際的な視野を養い、言語によるコミュニケーション能力を育成するために、外国語科目を設置する。
3．英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科の３学科ともに、言語・文学・文化・社会・歴史に関わる多種多様な講義・講読科目を設置し、知識の習得や文献・情報等の正確な理解力を養成する。

4．専門的・主体的な研究姿勢を身につけ、思考力・表現力・コミュニケーション力を養成する場としての演習を、専任教員による少人数制のゼミナール形式で、早い時期から豊富かつ段階的に設置し、きめ細やかな個別指導を行う。
5．学生が個々の興味・関心にそったテーマについて学ぶことができるように、授業履修上の制約を減らし、幅広い選択を保証する。
6．他学科の授業を履修しやすくし、また、３学科の専門科目を地域・時代などの共通項に注目した別視点により６つのクラスター群に編成し直し、学科の枠にとらわれない多角的な視点のもとでの領域横断的な研究を可能にする。
7．学生が段階的に知識・技能を積み上げることができるように科目を配置し、各自が追究した研究テーマの集大成としての卒業研究論文の提出を全員に義務づける。
8．全学共通に必修化されているキリスト教科目に加えて、専門の演習科目を設け、キリスト教に関する分野を卒業研究論文のテーマとして選択することができるようにする。
9．国際社会において貢献し得る人材を育成するために、日本語教員養成課程や英語エキスパートプログラムを設置する。

カリキュラム・マップ（略）

英語文化学科カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．英語力を集中的に身につける少人数制英語教育プログラムである「学科基礎科目」を１、２年生に必修として開設するとともに、多彩な英語科目を「実践英語科目」として提供し、４年間英語力を伸ばし続けることを可能にする。
2．「文学」、「総合」、「英語学」、「コミュニケーション」の４つの系の学問分野を学ぶために多種多様な講義・講読科目を段階的に配置し、英語圏を中心に、言語・文化・社会・歴史に関わる広範な知識を身につけ、探究することができるようにする。
3．１、２年生対象の「基礎演習」、３、４年生対象の「演習」、４年生対象の「卒業研究演習」を設置し、文献を講読し、分野特有の研究手法に学びながら、各自が課題を見つけ、分析的、論理的に探究し、論文として仕上げるプロセスを学ぶことができる。また、自分の考えを口頭で表現する発表の機会を通して、コミュニケーション能力を養成する。

4．英語で書かれた専門書をテキストとする授業や、英語で行う専門授業を提供することにより、英語学習が専門教育と有機的につながり、専門授業が英語学習の動機付けとなるとともに、身につけた英語力がさらに高度な専門分野の研究へと道を開くという相乗効果を生むように、科目を配置する。
5．専門分野の知識と各自の課題の探究の集大成として、４年生全員に5000語以上の英語卒業研究論文を書くことを義務づける。１年生から３年生向けに毎年英語で書くことを学ぶ授業を必修科目として開設し、４年生には卒論の英語の個別指導の授業を提供する。また演習、特に「卒業研究演習」の個別指導を通して、各自が自分の研究テーマを理論的に展開し、論文を完成できるようにする。
6．「実践英語科目」の中にTOEFLやTOEIC対策授業や、通訳・翻訳技術を学べる授業、児童英語に関する授業などを置き、留学や将来のキャリアのための実践的英語能力を身につける科目も提供し、幅広い学生の関心に応える。
7．中学英語、高校英語の教員免許の取得に関する授業科目を配置し、中学校・高等学校の教員の育成に寄与する。

カリキュラム・マップ（略）

日本語・日本文学科　カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．古代から現代に至るすべての時代を網羅して学ぶことができるよう科目をきめ細やかに多数開設するとともに、かつ全体的な視野を獲得するための概論や、歴史的な流れを把握することを可能にする文学史の授業を設け、学びの機会を充分に提供する。
2．初年次教育として、大学における学びや研究の基本的姿勢、日本語学・日本文学・漢文学の基礎的知識を身に付けるための授業を「講義Ⅰ」として多数セメスター開講する。また一定の分野に偏ることのない履修を促すよう、ゆるやかな選択必修枠を設ける。さらに、古典の基礎や日本語の文章指導に関する授業を設ける。
3．個々の学生の興味・関心に応じて研究を繰り広げ深めていけるよう、専門的内容について学ぶ講義科目（「講義Ⅱ」および「日本文化論」）については、受講対象学年の制限を極力なくし、自由な学習環境を整える。
4．４年次必修の「卒業研究」に向けて段階的に取り組んでいけるよう、２年次から学年進行ごとに学科専門に関わる全専任教員担当による演習（ゼミ）形式の少人数授業を

必修として配置し、あわせてコミュニケーション力やプレゼンテーション力等の汎用的能力や実践力の養成につとめる。

5．各学科専門科目において、日本語で書かれた種々のテキストと向き合うことを通じて、正確な読解力、論理的かつ柔軟な思考力、的確な表現力の向上をめざし、あわせて「日本」を対象化する能力を養成する。その総合的成果として、卒業研究（論文）を必修として課す。

6．国語科・書道科の教員免許の取得に関する授業科目を配置し、中学校・高等学校の教員の育成に寄与する。

カリキュラム・マップ（略）

文化総合学科　カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、その教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．現代社会で求められる、人々と交流し協働する力の習得を可能とするため、「異文化コミュニケーション」、「社会と制度」、「歴史」、「思想」の４系列を置き、異文化理解、欧米やアジア諸国の文化、国際関係論、憲法・民法、心理学、西洋史、日本史、東洋史、哲学、倫理学、諸宗教の文化や神話など、多様なテーマに関する科目を配置する。

2．各系列の講義科目を、「入門科目」と「特講科目」によって構成し、基礎から専門へと段階的に知識を習得できるよう配慮する。また、選択科目制をとることで、それぞれの領域における専門知識の習得だけでなく、各領域の横断的な学習・研究を可能にする。

3．１年次対象の「基礎演習」、２・３年次対象の「演習」、４年次対象の「卒業研究演習」といった１年次から４年次までの専任教員の担当する演習の履修を義務づけることで、論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力を段階的に習得させる。

4．初年次教育としての「基礎演習」では、大学での学習・研究にかかわる基礎的知識の習得を可能とする。また、様々な研究領域にふれられるよう、前期と後期において異なる「基礎演習」の履修を義務づける。

5．２・３年次対象の「演習」については、領域横断的な学習・研究への考慮から、複数の「演習」の同時履修を可能にする。

6．４年次対象の「卒業研究演習」は、質の高い卒業論文の執筆に特化した演習であり、４年間にわたる学習・研究の集大成と、さらに大学院進学に耐えうる研究能力の養成

を目的とする。
7．中学社会、高校地歴および公民の教員免許の取得に関する授業科目を配置し、中学校・高等学校の教員養成に寄与する。

カリキュラム・マップ（略）

人間生活学部カリキュラム・ポリシー

本学部の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現し、QOL 向上に資する女性リーダーの育成をめざし、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．豊かな教養と広い視野を身につけ、主体的に行動できる人格形成を促すために、共通科目を設置する。
2．世界の人々との共生と相互理解に欠かせないコミュニケーション能力とグローバル化時代に適応した国際的な視野を育成するため、必修を含めた英語科目を設置する。
3．英語以外の言語圏の人々の多様な文化･価値観を受け入れられる姿勢を育成するため、その他の外国語科目としてドイツ語、フランス語、中国語、コリア語等を配置する。
4．専門領域における生活の諸問題に対処するため、それぞれの学科専門領域の講義、演習、実習をバランス良く配置し体系的に学修できるカリキュラムを構成する。
5．専門分野の枠を超え、関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科受け入れ制度および他大学との単位互換制度を設ける。
6．大学における学修の総仕上げとして、個々の学生の興味・関心に沿ったテーマを深く探究し、その成果を具体化するための「卒業研究」を配置する。

カリキュラム・マップ（略）

人間生活学科　カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．初年次に、生活科学・社会福祉・地域環境の３区分の専門科目群を学ぶうえで必要な学習方法と、自らのキャリア選択に求められる基礎的な知識・技能や多様な見方・考

え方について導入教育を行う。また、コミュニケーションに関する演習や講義を通じてコミュニケーション能力を涵養する。

2．区分「生活科学」の専門科目群では、衣食住をはじめ、家族関係や生活経営、消費者問題などの学習を可能にする。大量の情報が行き交い価値観が多様化する現代社会の「生活」を、着実・安全で豊かなものにするために必要な知識・技術の習得を促す。

3．区分「社会福祉」の専門科目群では、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉をはじめ、支援を必要とする人々とともに生きる社会をサポートする福祉マインドの学びを可能にする。さまざまなニーズの理解や体験学習を通じて、共生社会を担うための知識・技術の習得を促す。

4．区分「地域環境」の専門科目群では、地域社会の成り立ちや、環境、文化などを理解し､地域の特性や課題の捉え方の学習を可能にする。地域の俯瞰･踏査に基づくフィールドワークや、生活科学を基礎とする生活のデザイン力、社会福祉で培う対人支援能力を集成して、地域づくりに貢献するための知識・技術の習得を促す。

5．区分「総合」の専門科目群に配置された３年次のゼミでは、生活科学・社会福祉・地域環境のいずれかの分野、または分野横断的に知識および技能の深化･総合化を図る。そして、卒業年次には卒業研究を必修とする。その過程で、自らのキャリアを意識したライフスタイルをデザインし、日常・社会生活をサポートする実践力や課題・問題の解決能力を育成する。

6．家庭科・福祉科の教員免許、社会福祉士国家試験受験資格の取得に関する授業科目を配置し、中学・高等学校の教員や社会福祉士の養成に寄与する。

カリキュラム・マップ（略）

食物栄養学科　カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．管理栄養士受験資格ならびに栄養士免許と栄養教諭教員免許取得に関する授業科目を配置し、管理栄養士・栄養士、栄養教諭の育成に寄与する。

2．初年次教育として、共通科目では大学における学びの基本的姿勢やグローバルな視点を身に付ける。また、導入科目を設け、早期から管理栄養士としてのキャリアデザインを考える機会を与える。

3．専門基礎分野では、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、

「食べ物と健康」において、講義および実験実習を行い、専門知識の基礎を養う。専門分野では、講義および実験実習により、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」を配置する。さらに、総合演習を経て、３年次の臨地実習で専門的知識と技能を統合する。

4．「卒業研究」にむけて、段階的に取り組んでいけるよう、３年次から卒業演習（ゼミ）形式の授業を配置し、あわせてコミュニケーション力やプレゼンテーション力等の汎用的能力や実践力の養成につとめる。さらに、４年次には、将来のキャリアを視野に入れた選択科目を設け、卒業後に役立つより高度な専門的能力と実践力を養う。

カリキュラム・マップ（略）

保育学科　カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1．本学の建学理念の一つである「愛と奉仕」の精神は、子どもを取り巻く人的環境の重要な要素であることを理解するために、「キリスト教保育」を置く。
2．就学前の子どもたちの生活や教育を支える人材を育てるため、保育に関する専門的な科目を、「保育の理論」、「児童の理解」、「障害児の理解」、「保育内容」、「保育の基礎技能」、「実習」、「専門研究法」の７区分から系統的に配置する。
3．卒業後、保育界に寄与できるように、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格の取得を可能にする。
4．障害のある子どもやその養育者（保護者・保育者）を支えるための専門的知識や技術についての科目を配置し、特別支援学校教諭一種免許状の取得も可能にする。
5．家庭や地域での保育事情を理解するために、子育て支援についての科目を配置する。
6．保育・教育現場及び地域との連携を密に取り、学生が主体的に保育現場へかかわる演習や多様な実習を通して、保育事情の総合的な理解を深める。

カリキュラム・マップ（略）